

新規事業採択時評価結果（平成20年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名： 下保 修

事業の概要

事業名	一般国道477号菟野バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	三重県
起終点	自：三重県三重郡菟野町音羽 至：三重県三重郡菟野町千草	延長	1.6 km		
<p>事業概要</p> <p>一般国道477号は、三重県四日市市を起点として、滋賀県・京都府を通り大阪府池田に至る延長約202kmの幹線道路である。菟野バイパスは、菟野IC及び四日市中央部へのアクセス向上による地域活性化を目指し、安全で円滑な交通確保を目的とした、延長1.6kmの改良工事である。</p>					
<p>事業の目的、必要性</p> <p>当該区間は、2車線で改良済みであるが、沿線周辺地域の開発が進み、交通量が増加傾向であり、安全で円滑な交通の妨げとなっている。</p> <p>このため、バイパス道路の整備により安全で円滑な交通機能を確認するとともに、菟野町千草地域と菟野IC及び四日市中央部の連携を強化するものである。</p>					
全体事業費	14億円	計画交通量	7,300台/日		
<p>事業概要図</p>					

<p>関係する地方公共団体等の意見</p> <p>当該区間の道路整備は、地域連携・地域活性化の支援に不可欠な道路であることから、三重県菟野町から早期整備の要望を受けている。</p>	
---	--

<p>事業採択の前提条件</p> <p>バイパス整備により、渋滞区間の解消により利用者の安全で円滑な交通の確保が可能となる。</p>

事業評価結果

費用対便益	B/C	16.1	総費用 13億円 事業費：12億円 維持管理費：1.7億円	総便益 216億円 走行時間短縮便益：223億円 走行費用減少便益：-6.3億円 交通事故減少便益：-0.41億円	基準年 平成19年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=	(交通量 %)	B/C=	(交通量 %)
		事業費変動	B/C=	(事業費 %)	B/C=	(事業費 %)
事業期間変動		B/C=	(事業期間 年)	B/C=	(事業期間 年)	
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎	<p>【渋滞損失時間の改善】 【1kmあたり(台kmあたり)渋滞損失時間】 50,127人時間/年・km(三重県平均17,729人時間/年・km)</p> <p>【渋滞度曲線】三重県内センサス区間の上位2割に含まれる。</p>		
		事故対策	○	<p>【死傷事故率】 113.9件/億台・km(三重県平均80.1件/億台・km)</p>		
		歩行空間	◎	現在、歩道のない人家連担区間に、歩道が設置される。		
	社会全体への影響	住民生活				
		地域経済	○	新名神高速道路「菟野IC」と県内有数の観光地である「湯の山温泉」を結ぶ重要な路線であり、アクセス性向上により、地域を支える観光産業のさらなる発展に寄与する。		
		災害	○	災害時孤立する地域のリタングンシーを確保することができる。		
環境						
地域社会	◎	菟野中心地から、新名神高速道路「菟野IC」東名阪自動車道「四日市IC」及び、中心都市である、四日市市市街地間を連絡し地域産業の発展に大きな役割を果たす一般国道477号の一端を形成する。				
事業実施環境						

採択の理由

既に着工している一般国道477号(四日市湯の山道路)との連携により、菟野町千草地域から新名神自動車道菟野IC、四日市市市街地中心部へのアクセス強化が図られる。菟野IC付近は、新名神自動車道との併走区間があり、同時施工が必要である。よって新名神自動車道の進捗にあわせて事業を実施する必要がある。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。